

胸なで下ろす原発反対派

漁業補償金 祝島分配分案再び否決

中国電力上関原発(上関町)建設計画に伴う漁業補償金を巡り県漁協祝島支店分の配分案

受け取り賛成島民 複雑

「否決になった安
心して」。午前10時
ぎ、柳井市の県漁協柳
井事業所前、組合員の
岡本正昭さん(68)が報
告すると、島民や原発
反対の支援者から拍手
が沸き上がった。岡本
さんは海は売らない。

「補償金も要らない」と
語気を強めた。
祝島支店は原発反対
の意思表示として補償
金約10億8千万円の受
け取り拒否を続ける。
だが、無記名で投票し
た2013年2月には
賛成が過半数になった

ように内心は補償金
を受け取ることに賛成
の人たちも少なくな
い。
そのため反対の組合
員らは今回、配分案否
決の意思を示す過半
数の書面を事前に27
人分集め結束を強め
た。組合員の木村力さ
ん(70)は「原発反対の
島民はつきり示さし
てができた」と胸を張
る。

一方で祝島支店は漁
獲量の低迷などで赤字
が続く、組合員が穴埋
めする現実も。16年度
は600万円程度の赤
字をそれぞれが12万
4千円ずつ負担し、17
年度も同程度の見通
し。部会で示された1
人平均約1700万円
の補償金に心が動いて

も無理からぬところ
だ。賛成した組合員は
「生活は苦しい。行き

場のない金ならもらっ
た方がいい」と吐露す
る。
今回、補償金の配分
案への賛否は反対27、
賛成23と大きな開きが
あるわけではない。原
発計画のために島が一
分されている現実に対
し、組合員の一人は島
内の対立だけでも早く
終わらせたい」と憂え
ていた。



漁業補償金の配分案の否決を受けて
喜ぶ、原発反対の祝島島民たち

原発補償の配分案 否決

上関・祝島 漁協組合員 反対再び

中国電力上関原発(山口
県上関町)建設計画に伴う
漁業補償金を巡り、県漁協
祝島支店(同町祝島)への
約10億8千万円の配分案を
協議する部会が27日、柳井
市で開かれ、反対多数で否
決した。事実上、補償金の
受け取りを拒否した格好
で、原発反対の意思をあら
ためて示した。

部会は、県漁協本店が柳

井事業所で開き非公開。出
席者によると、採決に先立
ち、正組合員1人当たり平
均約1700万円の補償額
の提示があったという。水
揚げ量や組合に加入する期
間で金額が異なる。准組合
員や支店が預かる金額など
も示した。採決は議長を除
く正組合員50人のうち、反
対27人、賛成23人だった。
補償金を巡っては13年2

月、受け取りに応じるか問
う無記名投票で賛成が初め
て過半数に。しかし、補償
金をどう組合員に配分する
か協議した15年4月の部会
では反対多数で否決した。

本店の村田則嗣監事は
「祝島の組合員から求めが
あり開いたが、意思決定を
尊重する」とした。上関原
発を建てさせない祝島島民
の会の清水敏彦代表は「否
決できてよかった。これか
らも原発計画の白紙撤回を
求め続ける」と話した。

部会は開催に必要な祝島
支店の5分の1以上の組合
員から請求があり本店が招
集。原発反対の組合員が山
口地裁上関支部に開催禁止
を求める仮処分を申請した
が却下されていた。

(堀晋也)

18.3.28 中国

漁業補償配分案 祝島で再び否決 県漁協支店、賛成と4票差

上関原子力発電所建設に伴う漁業補償金をめぐり、県漁業協同組合は27日、祝島支店(上関町)の組合員を集めた総会部会を柳井市内で開いた。補償金の配分基準案が提案され、27対23で否決。2015年4月の部会に続き、組合員は補償金の受け取りを拒む姿勢を示した。

部会は午前9時に始まった。支店への補償金約10億8千万円について、県漁協側が各漁師への配分基準案を説明し、採決した。県漁協によると、正組合員51人のうち議長を除く50人が投票し、4票差で否決した。

すべて非公開で、会場の外では数人の警備員が待機し、周囲にはフェンスが張り巡らされた。原案建設に

反対する島民や市民らが集まり、結果を待った。部会が終わり、准組合員として

出席していた「上関原発を建てさせない祝島島民の会」の清水敏保代表が「否決されました」と報告すると拍手がわいた。

原発反対派で祝島支店の運営委員長を務める岡本正昭さん(68)は「主張が通って安心している。自分はずっと漁師。絶対に海を売ってはいけない。これからも拒否の意思を堅く持ち頑張っていく」と話した。配

分案に賛成する男性組合員(81)は「残念だ」と述べた。

県漁協の村田則嗣常勤監事は「正規の意思決定の場での議決は尊重しなければならない」と話した。

祝島支店への漁業補償金の分配をめぐっては、13年に受け取りが可決されたものの、15年には配分基準案が否決された。

(尾崎 蒼海)